

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社  
コード番号 8255 URL <https://www.axial-r.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 原 和彦  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長・CFO (氏名) 山岸 豊後  
四半期報告書提出予定日 2023年8月9日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 0258-66-6711

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	63,785	4.8	2,823	17.0	2,888	11.8	1,949	12.4
2023年3月期第1四半期	60,872	1.3	2,413	17.5	2,585	13.3	1,734	14.3

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 1,992百万円 (1.1%) 2023年3月期第1四半期 1,971百万円 (6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	84.67	
2023年3月期第1四半期	75.28	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	123,398	79,059	64.1	3,446.52
2023年3月期	122,756	78,705	64.1	3,415.81

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 79,059百万円 2023年3月期 78,705百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		25.00		55.00	80.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		30.00		55.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	130,000	3.4	5,400	3.6	5,500	1.0	3,700	3.2	161.91
通期	263,000	3.2	10,900	4.4	11,000	0.5	7,000	10.1	308.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有  
2023年8月1日付で上記数値に修正しております。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	23,388,039 株	2023年3月期	23,388,039 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	449,119 株	2023年3月期	346,519 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	23,030,844 株	2023年3月期1Q	23,041,729 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、この四半期決算短信【添付資料】8ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

目 次

	頁
目次	1
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2 四半期連結財務諸表及び主な注記	10
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
(四半期連結損益計算書)	12
(四半期連結包括利益計算書)	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する事項)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	15
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	15
(会計方針の変更)	15
(会計上の見積りの変更)	15
(追加情報)	15
(セグメント情報)	16
3 補足情報	18
(1) 生産、受注及び販売の状況	18

文中における将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。当該将来に関する事項は、取締役会等の社内の会議体で合理的な根拠に基づく適切な検討を経たものであり、検討にあたっては、当社グループの事業所ごとに事業を取り巻く環境、事業計画、その他関連する諸条件を総合的に勘案して判断しております。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

当社グループは、スーパーマーケットの経営を事業主体としており、店舗「原信」「ナルス」「フレッセイ」を各地に出店しております。

## 1 当四半期決算に関する定性的情報

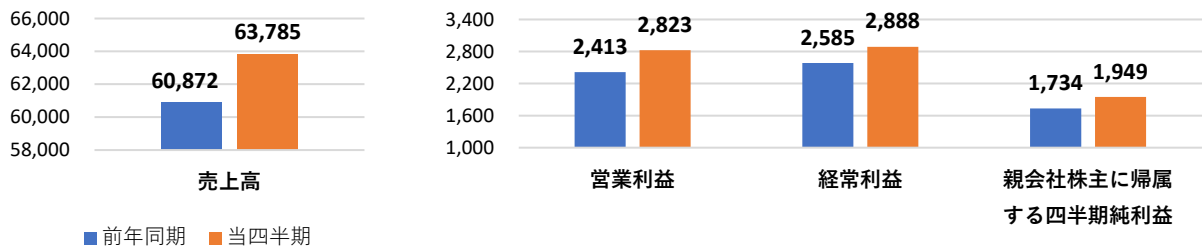
### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い人流が正常な状態に向かいつつありますが、物価高が進んでいることで、景気拡張の局面には転じがたい状態となっております。

このような状況において、当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結経営成績は、売上高が637億85百万円（前年同期比4.8%増）、営業利益が28億23百万円（前年同期比17.0%増）、経常利益が28億88百万円（前年同期比11.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が19億49百万円（前年同期比12.4%増）となりました。

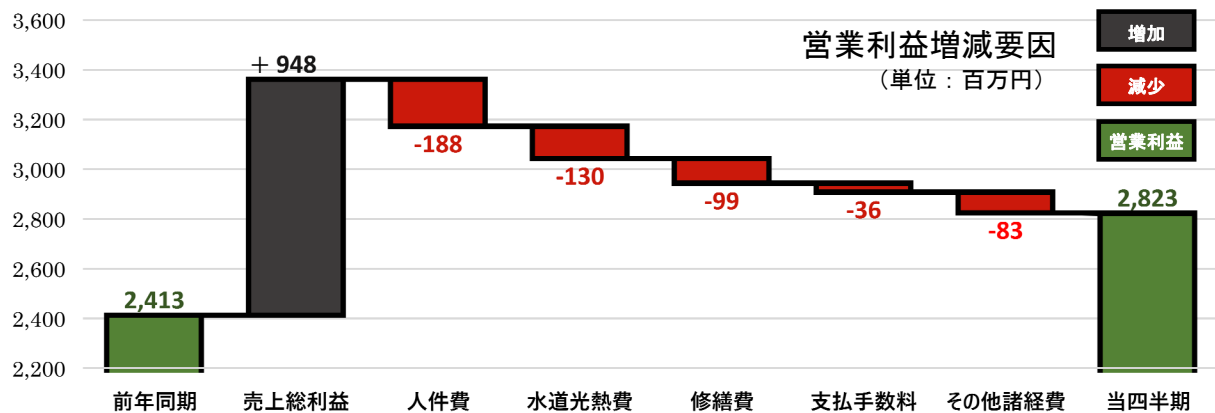
また、1株当たり四半期純利益は、84円67銭となりました。

### 損益増減（単位：百万円）



売上高につきましては、人流回復や商品販売価格改定が進んだことに加え、一部生活必需品の価格を据え置いた政策がお客様から評価をいただいたため、前年同期に比べ増加いたしました。

営業利益につきましては、売上高の伸長に加え、前連結会計年度より取り組んでいる利益確保及びコストカット施策が効果を発揮し前年同期に比べ増加いたしました。



<売上総利益>売上高増加、売上総利益率の増加

<人件費>定期昇給・ベースアップ実施、新規採用、社会保険料負担の増加

<水道光熱費>単価上昇

<修繕費>店舗改装

<支払手数料>キャッシュレス決済の増加

(アクシアル発足10周年と機構改革)

当社グループは、本年10月にアクシアル リテイリングとしての体制発足から10年を迎えます。

これにあたり、持株会社である当社と各事業会社の役割分担を明確にしつつ、一層の成長に向かって当社グループのシナジー効果を発揮するため、機構改革を行いました。

その内容は次のとおりであります。

<アクシアル リテイリングのガバナンス強化>

アクシアル リテイリングの社長は、事業会社である原信、ナルス、原信ナルスオペレーションサービスの社長を兼務しておりましたが、アクシアル リテイリングの社長に専念するため、事業会社の社長兼務を解き、アクシアル リテイリング代表取締役社長・CEOに就任いたしました。

アクシアル リテイリング社長は、当社グループの戦略立案、実現に集中し、各事業会社の政策実行を監督して、当社グループ全体がより一体感を持ってマスマリットの創出を図る体制にいたしました。

<C x O (最高責任者) の任命>

当社グループ全体の経営政策、財務政策、情報システム政策、人事政策を統括するため、それぞれCEO (最高経営責任者)、CFO (最高財務責任者)、CIO (最高情報システム責任者)、CHRO (最高人事責任者)を任命し、各機能を統括させることといたしました。

<その他>

新店等の建設・改修修繕、TQM (Total Quality Management: 総合的品質管理)、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)、広報及び内部統制の各機能を再編、強化いたしました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメント別の経営成績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの経営成績につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① スーパーマーケット

(全般)

当第1四半期連結累計期間におきましては、「「原点回帰」— マスマリットの創出へ、執念を持って取り組む —」を年度方針として掲げ、再整備 (畑を耕し直し)、開拓・開発 (新しい種をまく)、新しい価値観への対応 (これからの時代を見据えて) のための諸施策の展開を進めております。

当第1四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の経営成績は、売上高が636億14百万円 (前年同期比4.7%増)、営業利益が26億89百万円 (前年同期比19.6%増) となりました。

当第1四半期連結累計期間における業績の内容、取組みに関する事項は、以下のとおりであります。

(販売指標に関する動向)

当第1四半期連結累計期間の販売指標は以下のとおりであります。

項目		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	前年同期比
期末店舗数	グループ合計	129店舗	2店舗減少
	内訳 (原信)	67店舗	増減なし
	(ナルス)	13店舗	増減なし
	(フレッセイ)	49店舗	2店舗減少
店舗売上高	全店	62,777百万円	104.8%
	既存店	60,678百万円	104.4%
来店客数	全店	2,670万人	101.6%
	既存店	2,581万人	101.2%
客単価	全店	2,351円	103.1%
	既存店	2,350円	103.1%
買上点数	全店	11.79点	97.7%
	既存店	11.80点	97.8%
一品単価	全店	199円	105.5%
	既存店	199円	105.4%

(注) 1 記載数値は、「収益認識に関する会計基準」等に基づく調整前の数値で記載しております。

- 2 店舗数は、当第1四半期連結会計期間末現在におけるスーパーマーケットの設置店舗数であり、他業態の設置店舗数（100円ショップ2店舗）は含みません。
- 3 店舗売上高、来店客数、客単価、買上点数、一品単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。
- 4 客単価は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった金額の平均であります。
- 5 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった商品数の平均であります。
- 6 一品単価は、お客様がお買い上げになった商品の一品当たり金額の平均であります。
- 7 既存店は、店舗開設より満13か月以上を経過した店舗であります。

<来店客数>

値上げ基調の中、プライベート・ブランド商品で値ごろ感を維持していること、惣菜などがおいしさで支持を受けていることに加え、人流の回復で来店頻度が高まったため、来店客数は、既存店で前年同期に比べ1.2%増加し、全店では前年同期に比べ1.6%増加いたしました。

<買上点数>

物価高騰でお客様の節約志向が高まったため、買上点数は、既存店で前年同期に比べ2.2%減少し、全店では前年同期に比べ2.3%減少いたしました。

<一品単価>

生鮮相場が前年同期に比べ若干高く推移したことに加え、商品・原材料等の仕入価格上昇に伴う販売価格改定により、一品単価は、既存店で前年同期に比べ5.4%増加し、全店では前年同期に比べ5.5%増加いたしました。

<客単価>

買上点数は前年同期を下回りましたが、一品単価が前年同期を上回ったため、客単価は、既存店で前年同期に比べ3.1%増加し、全店では前年同期に比べ3.1%増加いたしました。

<商品販売における売上総利益>

お客様にとってあるべき売場を科学的にとらえて改善を図り、売場全体と売上総利益の最大化を実現するインスタ・マーチャンダイジングの取組みを前連結会計年度に引き続き強化しており、併せて、無駄な値下げ・廃棄の削減や得られるはずの利益を適切に確保するためのロス・チャンスロス分析を強化し、これらを当社グループの経営の根幹であるTQM（トータル・クオリティ・マネジメント）の手法で進めました。

この結果、各売場、各店舗、各部署のマネジメントレベルの向上が向上したことにより、売上総利益率は前年同期に比べ0.2ポイント増加し29.0%となり、売上総利益は前年同期に比べ5.6%増加いたしました。

(出店・退店等)

出店につきましては、該当ありません。

改装につきましては、原信紫竹山店（4月、新潟県新潟市中央区、売場面積2,475㎡）、フレッシュイ新保店（4月、群馬県高崎市、売場面積1,999㎡）について実施いたしました。

退店につきましては、該当ありません。

【原信紫竹山店】



【フレッシュイ新保店】



(エシカルな新ブランドの立ち上げ)



おいしさと、やさしさを。  
Hana-well

It's just like flowers are blooming!

Smiles Bring More Smiles

Let smiles bloom like flowers for the people, the world, and the future.

近年、世界が直面する様々な課題に対し、持続可能な社会の実現を目指す取組みの必要性が周知され、地球環境や社会問題における課題を考慮した消費活動、いわゆるエシカル (ethical) 消費が高まりを見せております。

当社グループでは、これまで事業活動を通じて社会に貢献する様々な取組みを行ってまいりましたが、社会課題への対応と事業の一体化を一層進める取組みとして、このたび、エシカル商品の新ブランド「Hana-well」(ハナウェル) を立ち上げました。このブランド名には、次のような想いを込めています。

～～～ Hana-well ～～～

人と地球が「幸せ」に、そして「健やか」に互いを認め合いながら、そして手を取りながら

「今」と「未来」に花が咲くように、の意味を込め

「花 Well-being」を略して名付けました。

花は「自然・成長・笑顔」を象徴し

Wellは「well-being(総合的な幸福感)」を意味します。

「幸せの花を植えていく」その想いを込めたオリジナルブランドです。

###

また、ロゴマークは、障がいをお持ちでありながらアーティストとしてご活躍されている田中翠恵様に制作していただいたものであり、次のような作者様の想いが込められています。

～～～ ロゴマーク ～～～

やさしい手 (人) がつながって、健康・福祉・幸福がある。

やさしい手 (人) が花を植え、地球に笑顔をもたらす。

わたしは、やさしい手の中に、

花ことばが幸福の意味を持つ花々・動物・魚・野菜・果物で

「はーと」を表現しました。

「はーと」には、心・命・愛・地球の意味を込めました。

###

このブランドは、独自に開発した商品を通じて、「地球と人」の「今と未来」に向けて私たちが発信・提供・提案する取組みです。やさしさを「地球」「健康」「地域」「人」「未来」の5つの軸と15のテーマで取り組み、おいしくご提供することで、事業者である当社グループと消費者であるお客様双方のWell-being (身体的・精神的・社会的な幸福) を目指し、社会課題への対応に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

## ② その他

(全般)

当第1四半期連結累計期間におけるその他の事業の経営成績は、売上高が14億82百万円(前年同期比15.5%増)、営業利益が1億47百万円(前年同期比5.8%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間における業績の内容、取組みに関する事項は、以下のとおりであります。

(情報処理事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、情報機器の販売が前年同期を上回ったため増加いたしました。また、外部顧客向けの販売は、納期に至った受注案件が前年同期を上回ったため増加いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ27.6%増加し、営業利益は、前年同期に比べ13.6%増加いたしました。

(印刷事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、各種印刷物について電子媒体への移行が進んだ影響で若干減少いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、顧客の事業活動等について新型コロナウイルス環境下における低迷からの回復が見られ、印刷物や各種イベント関連の受注が増え増加いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ3.6%増加いたしました。営業利益は、原料原価の高騰で製造原価が増加したことから、前年同期に比べ80.3%減少いたしました。

(清掃事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、安定した受注を受け前年同期に比べ増加いたしました。また、外部顧客向けの販売は、清掃関連の販売が前年同期並みであったことに加えリサイクル資材の販売単価が上昇し前年同期に比べ増加いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ9.6%増加し、営業利益は、前年同期に比べ3.9%増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第1四半期連結会計期間末における連結財政状態は、総資産が1,233億98百万円（前連結会計年度末比6億41百万円増）、総負債が443億39百万円（前連結会計年度末比2億87百万円増）、純資産が790億59百万円（前連結会計年度末比3億53百万円増）となりました。

また、1株当たり純資産額は、3,446円52銭となり、当第1四半期連結会計期間末におけるPBR（株価純資産倍率）は、1.05倍となりました。

当第1四半期連結会計期間末における連結財政状態全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。

(総資産)

流動資産は334億63百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億40百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が、設備投資ならびに法人税等の納税により前連結会計年度末に比べ10億61百万円減少したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ1.3ポイント減少し27.1%となりました。

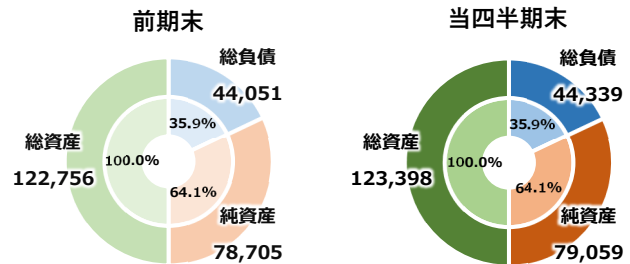
固定資産は899億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億82百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ1.3ポイント増加し72.9%となりました。

有形固定資産は723億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億91百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物が、店舗改装により前連結会計年度末に比べ4億7百万円増加したこと、並びに、建設仮勘定が、今後の新規出店、本社移転及び食品工場増強に係る設備投資により前連結会計年度末に比べ10億14百万円増加したことによるものであります。

無形固定資産は26億43百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に、ソフトウェア仮勘定が、新規情報システムへの投資により前連結会計年度末に比べ52百万円増加したことによるものであります。

投資その他の資産は149億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億73百万円増加いたしました。これは主に、敷金及び保証金が、今後の新規出店に関連して前連結会計年度末に比べ1億67百万円増加したこと、並びに、投資有価証券が、時価総額の上昇により前連結会計年度末に比べ64百万円増加したことによるものであります。

貸借増減（単位：百万円）





(総負債)

流動負債は296億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億47百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が、商品仕入高の増加により前連結会計年度末に比べ8億40百万円増加したことによるものであります。なお、流動負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント増加し24.0%となりました。

固定負債は147億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ59百万円減少いたしました。これは主に、リース債務が、返済により前連結会計年度末に比べ66百万円減少したことによるものであります。なお、固定負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少し11.9%となりました。

(純資産)

株主資本は774億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億11百万円増加いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益19億49百万円であり、減少要因は、剰余金の配当12億67百万円及び自己株式の取得3億71百万円であります。なお、取締役会決議に基づく自己株式の取得(約定日基準による取得期間：2023年6月14日から2023年12月31日、取得しうる株式の総数上限50万株、株式の取得価額の総額上限15億円)を実施しており、当第1四半期連結累計期間においては、取得株式の総数102,600株、取得価額の総額3億71百万円の自己株式を取得いたしました。

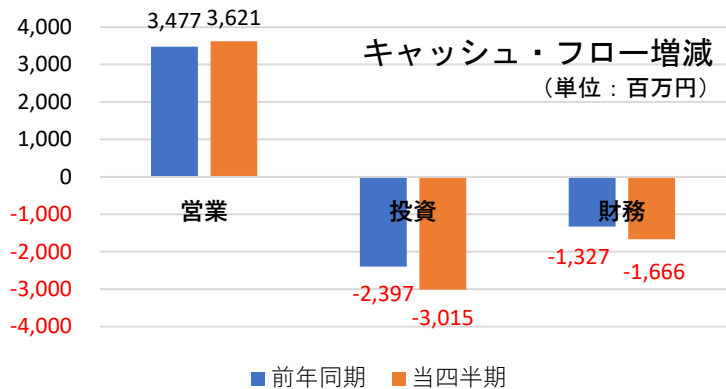
その他の包括利益累計額は15億89百万円となり、前連結会計年度末に比べ42百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が、保有する投資有価証券の時価総額の増加により前連結会計年度末に比べ57百万円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末と同様の64.1%となりました。

② キャッシュ・フロー

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」といいます。)は、184億78百万円(前連結会計年度末比10億61百万円減)となりました。

当第1四半期連結累計期間における連結キャッシュ・フロー全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。



(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は36億21百万円となり、前年同期に比べ1億43百万円増加(前年同期比4.1%増)いたしました。これは主に、経常利益の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は30億15百万円となり、前年同期に比べ6億18百万円増加(前年同期比25.8%増)いたしました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が、今後の出店、本社移転及び食品工場増強等に係る設備投資により前年同期に比べ3億97百万円増加(前年同期比17.2%増)したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は16億66百万円となり、前年同期に比べ3億38百万円増加(前年同期比25.5%増)いたしました。これは主に、自己株式の取得による支出が、取締役会決議による取得を実行したため前年同期に比べ3億74百万円増加(前年同期比大幅増加)したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

【業績予想の修正】

最近の業績動向等を踏まえ、2023年8月1日付で、2023年5月2日に公表いたしました2024年3月期第2四半期（累計）並びに2024年3月期通期の連結業績予想につきまして、下記のとおり上方修正しております。

その概要は、次のとおりです。

(第2四半期連結累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	126,500	4,300	4,300	3,000	130.20
今回修正予想 (B)	130,000	5,400	5,500	3,700	161.91
増減額 (B)-(A)	+3,500	+1,100	+1,200	+700	
増減率 (%)	+2.8	+25.6	+27.9	+23.3	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期第2四半期)	125,719	5,212	5,444	3,583	155.53

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	256,000	8,900	9,000	6,000	260.40
今回修正予想 (B)	263,000	10,900	11,000	7,000	308.42
増減額 (B)-(A)	+7,000	+2,000	+2,000	+1,000	
増減率 (%)	+2.7	+22.5	+22.2	+16.7	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期通期)	254,966	10,443	10,940	6,356	275.85

(修正の理由)

売上高につきましては、人流回復や原料原価高騰による商品販売価格改定が進んだことに加え、お客様の消費が想定以上に力強い動向を示しており、当初の業績予想数値を上回る見込みとなりました。

また、各利益につきましては、売上高の伸長に加え、前連結会計年度より取り組んでいる利益確保及びコストカット施策が効果を発揮しており、当初の業績予想数値を上回る見込みとなりました。

(売上高予想の前提となる店舗売上高の見通し)

業績予想の基本となる店舗売上高については、次のとおり見込んでおります。

項目	前連結会計年度対比 (2023年3月期対比)	
	全店 (%)	既存店 (%)
第2四半期 (2024年3月期第2四半期)	104.0	103.6
通期 (2024年3月期)	103.8	102.6

【修正後の第2四半期の業績予想に対する第1四半期の実績の進捗状況等について】

当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症下からの景気回復の影響や様々な資源価格の高騰、為替動向の影響等があり業績の見通しが非常に困難な状況にあります。

当第1四半期連結累計期間の実績は、若干上振れが認められますが、7月以降の電気料金再値上げ、原料原価の価格動向等業績に及ぼす不確定要素等を考慮すると概ね予想に沿ったものであります。

なお、修正後の第2四半期連結累計期間の業績予想に対する当第1四半期連結累計期間の実績の進捗状況は以下のとおりであります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
第2四半期予想 (A)	130,000	5,400	5,500	3,700	161.91
第1四半期実績 (B)	63,785	2,823	2,888	1,949	84.67
進捗率 (%) (B)/(A)	49.1	52.3	52.5	52.7	52.3

【注意事項】

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

2 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,541	18,480
受取手形及び売掛金	5,032	4,834
リース投資資産	540	519
商品及び製品	5,383	5,708
仕掛品	34	21
原材料及び貯蔵品	384	428
未収還付法人税等	356	512
その他	3,533	2,962
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	34,804	33,463
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	40,685	41,093
機械装置及び運搬具（純額）	600	638
土地	20,864	20,868
リース資産（純額）	1,827	1,779
建設仮勘定	3,890	4,905
その他（純額）	2,754	3,031
有形固定資産合計	70,624	72,316
無形固定資産		
のれん	2	2
その他	2,624	2,641
無形固定資産合計	2,626	2,643
投資その他の資産		
投資有価証券	3,201	3,266
長期貸付金	5	4
退職給付に係る資産	169	152
繰延税金資産	3,699	3,756
敷金及び保証金	6,803	6,970
その他	842	845
貸倒引当金	△20	△20
投資その他の資産合計	14,701	14,974
固定資産合計	87,952	89,935
資産合計	122,756	123,398

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,046	16,886
契約負債	673	652
リース債務	301	295
未払法人税等	2,237	1,077
役員賞与引当金	274	84
賞与引当金	2,181	2,704
その他	7,546	7,911
流動負債合計	29,262	29,610
固定負債		
リース債務	2,547	2,480
資産除去債務	6,063	6,091
長期預り保証金	6,007	5,989
退職給付に係る負債	2	2
その他	167	164
固定負債合計	14,788	14,728
負債合計	44,051	44,339
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	15,749	15,749
利益剰余金	59,476	60,159
自己株式	△1,226	△1,598
株主資本合計	77,159	77,470
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,332	1,389
退職給付に係る調整累計額	214	200
その他の包括利益累計額合計	1,546	1,589
純資産合計	78,705	79,059
負債純資産合計	122,756	123,398

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	60,872	63,785
売上原価	43,060	45,025
売上総利益	17,811	18,760
販売費及び一般管理費		
従業員給料	2,488	2,484
雑給	4,373	4,517
役員賞与引当金繰入額	74	84
賞与引当金繰入額	928	901
退職給付費用	200	189
地代家賃	1,326	1,371
減価償却費	1,124	1,135
のれん償却額	0	0
貸倒引当金繰入額	—	1
その他	4,881	5,250
販売費及び一般管理費合計	15,398	15,936
営業利益	2,413	2,823
営業外収益		
受取利息	9	8
受取配当金	36	43
受取保険金	102	6
その他	34	21
営業外収益合計	183	79
営業外費用		
支払利息	11	11
その他	0	2
営業外費用合計	12	14
経常利益	2,585	2,888
特別利益		
固定資産売却益	—	4
特別利益合計	—	4
特別損失		
固定資産除却損	3	14
減損損失	26	6
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	1	—
特別損失合計	31	20
税金等調整前四半期純利益	2,553	2,872
法人税、住民税及び事業税	944	981
法人税等調整額	△125	△58
法人税等合計	819	922
四半期純利益	1,734	1,949
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,734	1,949

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	1,734	1,949
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	251	57
退職給付に係る調整額	△14	△14
その他の包括利益合計	237	42
四半期包括利益	1,971	1,992
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,971	1,992
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,553	2,872
減価償却費	1,200	1,220
減損損失	26	6
のれん償却額	0	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△25	1
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△271	△190
賞与引当金の増減額 (△は減少)	485	522
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△36	—
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△28	△3
受取利息及び受取配当金	△45	△51
支払利息	11	11
固定資産売却損益 (△は益)	—	△4
固定資産除却損	3	14
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	1	—
売上債権の増減額 (△は増加)	168	198
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△475	△355
仕入債務の増減額 (△は減少)	680	840
未払又は未収消費税等の増減額	202	279
リース投資資産の増減額 (△は増加)	23	21
その他	138	367
小計	4,612	5,751
利息及び配当金の受取額	36	43
利息の支払額	△9	△9
法人税等の支払額	△1,160	△2,164
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,477	3,621
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	—	0
有形固定資産の取得による支出	△2,303	△2,700
有形固定資産の売却による収入	—	0
無形固定資産の取得による支出	△83	△86
貸付けによる支出	△0	△0
貸付金の回収による収入	1	1
敷金及び保証金の純増減額 (△は増加)	△15	△158
その他	4	△71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,397	△3,015
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	△96	△76
自己株式の取得による支出	△0	△374
配当金の支払額	△1,230	△1,215
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,327	△1,666
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△246	△1,061
現金及び現金同等物の期首残高	18,450	19,539
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,203	18,478



(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する事項)

当第1四半期連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

重要な子会社の異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社フレッセイを吸収合併存続会社、同じく当社の連結子会社である株式会社フレッセイヒューマンズネットを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	60,692	60,692	180	60,872
セグメント間の内部売上高又は振替高	37	37	1,103	1,140
合計	60,730	60,730	1,283	62,013
セグメント利益	2,249	2,249	139	2,388

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	63,571	63,571	214	63,785
セグメント間の内部売上高又は振替高	43	43	1,268	1,311
合計	63,614	63,614	1,482	65,096
セグメント利益	2,689	2,689	147	2,836

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

前第1四半期連結会計期間(2022年6月30日)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

当第1四半期連結会計期間(2023年6月30日)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

3 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

利益	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
報告セグメント合計	2,249百万円	2,689百万円
「その他」の区分の利益	139百万円	147百万円
セグメント間取引消去	4百万円	△13百万円
全社費用	△182百万円	△206百万円
その他の調整額	202百万円	207百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	2,413百万円	2,823百万円

- (注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。
- 2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に係るものであります。
- 3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に対する経営指導料支払額の消去であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）  
該当事項はありません。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）  
重要な影響を及ぼすものではありません。

当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）  
重要な影響を及ぼすものではありません。

### 3 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)		前年同期比		
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率	
ス ー パ ー マ ー ケ ツ ト	生鮮食品						
	青果	8,219	13.2	8,268	12.7	48	100.6
	精肉	7,058	11.4	7,683	11.8	625	108.9
	水産	6,177	10.0	6,466	9.9	289	104.7
	惣菜	6,151	9.9	6,623	10.2	471	107.7
	計	27,606	44.5	29,042	44.6	1,435	105.2
加 工 食 品	加工食品	12,847	20.7	13,509	20.7	662	105.2
	加工食品	15,848	25.6	16,382	25.2	534	103.4
	インスタアベーカーリー	1,074	1.7	1,234	1.9	159	114.9
	計	29,770	48.0	31,126	47.8	1,356	104.6
そ の 他	住居	1,815	2.9	1,848	2.8	33	101.9
	衣料品	21	0.0	21	0.0	0	100.9
	その他	69	0.1	73	0.1	3	104.8
	営業収入	1,409	2.3	1,458	2.3	49	103.5
	セグメント間の内部売上高又は振替高	37	0.1	43	0.1	5	115.4
	小計	60,730	97.9	63,614	97.7	2,884	104.7
そ の 他	外部顧客への売上高	180	0.3	214	0.3	33	118.8
	セグメント間の内部売上高又は振替高	1,103	1.8	1,268	2.0	164	115.0
	小計	1,283	2.1	1,482	2.3	198	115.5
	合計	62,013	100.0	65,096	100.0	3,083	105.0

② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)		前年同期比		
	仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率	
ス ー パ ー マ ー ケ ツ ト	生鮮食品						
	青果	6,112	14.0	6,083	13.4	△28	99.5
	精肉	5,427	12.5	5,845	12.8	417	107.7
	水産	4,376	10.0	4,569	10.0	193	104.4
	惣菜	3,411	7.8	3,707	8.2	296	108.7
	計	19,327	44.3	20,206	44.4	878	104.5
加 工 食 品	加工食品	9,234	21.1	9,824	21.6	589	106.4
	加工食品	12,254	28.1	12,446	27.3	192	101.6
	インスタアベーカーリー	437	1.0	502	1.1	64	114.7
	計	21,926	50.2	22,773	50.0	846	103.9
そ の 他	住居	1,381	3.2	1,380	3.0	△0	99.9
	衣料品	12	0.0	12	0.0	0	106.1
	その他	17	0.0	17	0.0	0	100.4
	リース原価	23	0.1	23	0.1	0	100.7
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	49	0.1	47	0.1	△1	96.6
	小計	42,739	97.9	44,463	97.6	1,723	104.0
そ の 他	外部取引先からの仕入高	840	1.9	934	2.0	94	111.2
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	59	0.2	165	0.4	106	278.5
	小計	899	2.1	1,100	2.4	200	122.3
	合計	43,638	100.0	45,563	100.0	1,924	104.4

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。